

第3回 関節外科専門医をめざして

八戸平和病院整形外科科長

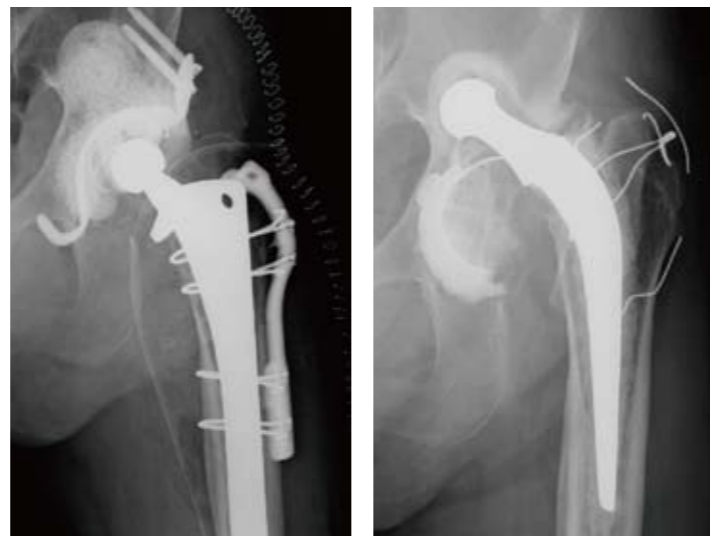
藤井 一晃

ふじ い かず あき



1 高位脱臼

2 高位脱臼術後



3 術後15年

4 再置換術後



5 リハビリ風景



6 講演風景

数多く手術をしていると、難しい例も多くなってきました。遠方の方や、他の施設では手術はしない方がいい、と言われた患者さんも多く受診していただけるようになり、八戸で出来ない事はないと言えるよう、自分なりに努力してまいりました。今回は難しい股関節手術について、現在の病院内の体制、今後の展望についてご紹介いたします。

股関節高位脱臼

股関節が完全に脱臼している状態を高位脱臼と言います。(写真1) 以前は小児の股関節検診が行われていなかったため、適切な診断、治療が行われず、成人になってから疼痛が強くなったり、足の長さの差が大きくなることにより、歩けなくなり始めて病院を受診することになります。日常生活が非常に困難となるにもかかわらず、手術は

患者さんとスタッフの協力があってこそ

医師である私が努力するのは当たり前ですが、手術よりも、もっと大切なことがあります。私自身は関節手術の成績を上げるには手術は1割で残りの9割はスタッフおよび患者さんの努力によるものと思っています。私が平和病院に赴任して以来、スタッフは本心に頑張ってくれています。最初に外来受診される時、患者さんはかなり不安であると思いますが外來のスタッフは不安のないように、私以上に患者さんに説明してくれます。手術の機械介助をする看護師さんは、機械の事を熟知し、スムーズに手術が進みます。術後病棟での人工関節手術のケアも病棟スタッフは完璧に行ってくれています。関節手術では重要なリハビリのスタッフも充実し、休みも返上でリハビリに取り組んでいます。(写真

難しいため、行わない方がいいと言われていました。しかし、現在では手術方法、機械の進歩により正常の位置に関節を作る事が可能になり、私は積極的に手術を行っています。(写真2)

人工関節の緩みに対する手術

人工関節は機械であるため耐久年数があります。(現在では25年〜30年と言われています) 緩んだ場合には、人工関節を入れ換える人工股関節再置換術が必要となりますが、患者さん自身も再手術に対しては消極的になるため、状態が悪くなってから受診される場合が多く見られます。写真3の患者さんは人工関節が完全に脱臼し、歩けない状態で受診されました。骨の欠損が多くなるなど再手術は困難ですが、ハイドロキシアパタイトという人工骨とプ

5) しかし、もっと大切なことは患者さん自身の努力です。幸い術後はみなさん良くなり、たいという気持ちを強く持ち、一緒にリハビリをやっていきます。努力している患者さんは、本当によくあります。そのような患者さんに多く訪れていただき、おかげさまで、今回この雑誌に取り上げていただきました。本当にありがとうございます。しかし、未だに人工関節についての情報を知らないまま苦しんでいる方が多いのが現実です。さらに関節疾患の事を知っていただけるよう講演会も積極的に行っています。(写真6) 関節疾患でお困りの方はぜひ訪れて質問してください。私自身もさらに努力を重ね、関節外科専門医として成績を上げ、八戸地区から関節痛で困っている方がなくなるようにしたいと思います。

レントを併用することによりどのような場合でも対処可能となりました。(写真4)

高位脱臼例と人工股関節再置換術の手術は難しかったのですが、対処できるように海外、国内の施設研修と学会に参加し、良い部分を吸収させていただき、現在の私自身の手技を確立し、良好な成績を上げることが可能になってきています。

FUJII KAZUAKI

藤井 一晃

ふじ い かず あき

秋田県湯沢市出身
昭和63年 弘前大学医学部卒業、弘前大学整形外科入局
平成8年 博士号取得
平成11年 フランス留学
平成12年 八戸市民病院整形外科科長
平成16年 八戸平和病院整形外科科長



気軽に相談、地域とともにだち。

(財)日本医療機能評価機構 審査体制区分2(Ver.6.0)

医療法人 平成会 **八戸平和病院**

外科、整形外科、泌尿器科、消化器内科、内科、循環器内科、眼科、麻酔科・ペインクリニック

〒031-8545 八戸市湊高台2-4-6
TEL: 0178-31-2222 URL: <http://www.heiwa-hp.or.jp/>

診療 平日 8:00~12:00、14:00~17:00
受付 ※診療科によって異なります。ホームページやお電話でご確認下さい。